

# 世界的バイオリニスト 五嶋みどりさんが子どもたちに伝えたこと

大阪文化考

Vol.14

平成26年度  
日本万国博覧会記念基金 助成事業



児童に愛用のバイオリン  
(1734年製・グアルネリ)で  
弾き方を教える五嶋さん

コンサートに行くことや音楽家との交流を望みながら、病院や遠隔地で暮らしているなど、さまざまな事情でホールに出向くことが叶わない子どもたちがいる。アジアの国のなかには、いまだにクラシック音楽の生演奏を聴く機会がほとんどない地域もある。五嶋みどりさんは、そうした環境にある子どもたちのために、国内外の若手演奏家と協力し、アジア各国や日本の学校、病院、児童福祉施設などでの訪問コンサートを続けている。

この活動は、五嶋さんが理事長を務めるNPO法人「ミュージック・シェアリング」の活動の一環で、「ICEP (International Community Engagement Program)」と呼ばれ、形態を変えながら今年で22年目。学校訪問は同法人が公募し、今年6月20日、大阪市北区の市立堀川小学校でのコンサートが実現した。関西・大阪21世紀協会は、平成26年度の日本万国博覧会記念基金の助成事業のひとつとして、この活動を支援している。

この日、講堂で待つ児童たちが思いのほか緊張して見えたのは、五嶋さんが、自分たちと同じ11歳でニューヨーク・フィルハーモニックと共演してデビューし、世界中から「天才少女」と呼ばれたことを教科書を読んで知っているから。現れた五嶋さんは、ミュージック・シェアリングのロゴが入ったTシャツに花柄のスカートというラフな出で立ち。包み込むようなやわらかな微笑みが、一人ひとりに「一緒に音楽を楽しもうね」と優しく語りかけているようでもある。そ



の温かな印象で緊張感はすぐに解け、講堂は一瞬で和やかな雰囲気になった。

五嶋さんは、世界からオーディションで選ばれた3人の若手演奏家とカルテットを組み、モーツァルトの『アイネ・クライネ・ナハトムジーク』やチャイコフスキーの『くるみ割り人形』より「ロシアの踊り」など5曲を披露した。

「いつも本物の音楽を広めたいと思いながら活動しています」という五嶋さん。ミュージック・シェアリングの理念である「本物の音楽」とは、完成度や芸術性が高いことと、音楽の本質を知ることにある。つまり、音楽を作った人の人間性に触れ、音楽を聴いたり演奏することで他者に何をもたらし、あるいは何をもたらさないかを経験的に知ること。堀川小教諭の寺澤紫寿江さん(音楽主任)も、「五嶋さんたちの演奏技術だけではなく、音楽によって

人の気持ちを理解したり、頑張ることの大切さを感じ取ってもらうのが目的」という。

コンサート終了後、五嶋さんは児童の質問に応じて「上手に演奏するためには、短気にならず、毎日心をこめてコツコツ練習すること」「演奏中は演奏することだけに集中している」などと語った。「本物の音楽」に直に触れた児童たちは、その言葉からも、「音楽の力」をしっかりと聞き取ったに違いない。

(ライター 三上祥弘)

## 五嶋みどりさん

大阪府出身、ロサンゼルス在住。アメリカの教科書や教育番組「セサミストリート」などに登場する、欧米でももともとポピュラーなクラシック音楽家。1992年に非営利団体「Midori&friends(ニューヨーク)」「みどり教育財団東京オフィス(現 認定NPO法人ミュージック・シェアリング)」を設立。南カリフォルニア大学ソントン音楽学校弦楽学部長、2007年より国連平和大使。